

2018 年度 前期授業評価アンケート 顕彰科目担当教員コメント

教員名	八島 由香
顕彰科目名	日本文学史（古典）Ⅰ－Ⅰ
<p>●授業運営において工夫している点</p> <p>「文学史」という授業のため、作品名や作者、作品の特徴を教えています。単なる暗記にならないよう、いくつかの場面をかいつまんで読み、解説を加えることで、特徴をつかんでもらえるよう心がけています。1回の授業で、2作品ほど解説することにしており、1回で完結する内容になっています。（ただし『源氏物語』だけは2回の続き物で解説をしています。）欠席をした場合も、予習をしたい場合も、学習しやすいよう、作品解説はシラバス通りに行っております。</p> <p>授業資料はプリントで、空欄補充をしながら重要な用語をおさえられるようにしています。授業資料の空欄の解答は、欠席者もしくは出席者が聞き漏らした場合に困らないよう、授業後、できるかぎり早めに、学内 SNS にあげるようにしております。また、お勧め本の紹介なども学内 SNS にあげることで、少しでも古典文学作品に興味を持ってもらう糸口をつくるよう、心がけております。</p> <p>毎回、授業の最後に、3～4問のクイズを出題しています。出席カードの裏に解答を書き、こちらが正解をチェックします。学生一人ひとりの正解したクイズの数を控え、最終的には成績の30%に含めています。このクイズは、授業を聞いていないとできないものもあります。そのためか、受講生は授業を注意深く聞いてくれているように思われます。このクイズの問題と解答は、授業後に学内 SNS にあげ、できるだけ早く結果がわかるようにするとともに、次の回の授業の冒頭で、問題と解答を発表し、前回の授業内容を簡単におさらいしています。ちなみに、今年度15回分のすべてのクイズに正解した学生は、受講生70名のうち、3名でした。このようなクイズでも、受講生にとっては、学習をする上で、励みの一つとなっているように感じています。</p> <p>この授業は、持ち込み不可で知識重視の筆記試験があります。60問ほどある大変な試験ですが、筆記試験の一ヶ月以上前に昨年度の試験問題と解答を配布することで、テスト勉強をしやすくし、より確実に知識をつけられるよう工夫しています。学生も過去の試験問題を使って、よく学習をしてくれているようで、100点満点の試験で90点以上の学生も多く、よく学習をしてくれたと、感心しております。</p> <p>●今後取り組んでいこうと考えていることなど</p> <p>作品の「おすすめシーン」としている内容の部分を、より受講生の興味を引くものや展開がおもしろいものに変えていくことで、学生が自主的に読んでみたいと思わせるような解説ができればいいと考えております。そのような観点から、私自身がそれぞれの作品をしっかりと読み込み、改めて学び直す必要があることを感じております。</p> <p>また、クイズに関しても、時には難しいものも織り交ぜつつ、より授業に生かしていけるようなものにするためには、どのようなものがあるのか、改めて考えたいと思っております。</p> <p>他にも、学生が自主的に学ぼうと思える工夫ができないか、受講生に意見を求めながら、自らも常に考えていきたいと思っております。</p>	